

第6回旭市道の駅建設準備委員会（視察研修）会議録

日 時：平成25年10月22日（火）

午前7時25分～午後7時30分

場 所：栃木県小山市 道の駅「思川」

茨城県古河市 道の駅「まくらがの里こが」

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

- ・出席者 11名 平野（陽）委員代理 旭市商工会理事 小川又次
椎名委員代理 花卉生産者協議会副会長 小澤昌志
堀江委員代理 商工観光課 根本勝博
- ・欠席者 6名 小島委員、林委員、土屋委員、菅生委員、高野委員、大久保委員

あいさつ

委員長：公私共にお忙しい中視察に参加いただきありがとうございます。前回委員会において本日の決定事項としていました、「施設外観のA案及びB案の決定」については、欠席者等も多いため、11月1日の準備委員会の際に決定したい。本日は一日長時間になりますが、よろしくお願ひします。

○事務局より本日の行程及び設計の進捗状況について車中で説明

【視察研修概要】

○栃木県小山市道の駅「思川」における研修

- ・平成18年4月29日に開業。
- ・管理運営については、運営当初立ち上げた第3セクターが指定管理者となり管理運営している。
- ・小山の「水と緑と大地」の豊かな自然と人々の高い技術によって生み出される農畜産物、商工芸品等の小山ブランドの創出と発進、地産地消・食育の推進、そして都市と農村の交流を促進する拠点施設として整備。
- ・販売・加工施設である「小山物語館」では、直売コーナーにおいて新鮮な野菜や果実、花、米等、地元農家が生産した農畜産物を販売し、物産コーナーでは「小山ブランド品」を主に物産品を販売、加工品コーナーではアイス、パン、漬物といった、「思川」でしか食べられない地元の食材を使った加工品の製造・販売をしている。
- ・レストランは「食彩館SAKURA」で小山産の食材を使った料理を提供し、運営はホテル経営業者に委託している。
- ・直売施設に隣接したコミュニティ施設の「小山評定館」では会議、研修会、集会、講演、フラダンス、合唱等の練習、お茶会等に利用され、年間10万人以上の利用がある人気施設である。

- ・ 現在道の駅周辺の道路整備が着実に進んでいるため更なる集客に期待している。施設の南側には市民農園があり市の農政課で部分的に管理している。
- ・ 駅長は市長であり実質的な道の駅の管理は支配人が行っている。現在支配人としては3代目であり、現在で就任6年目に至る。

○茨城県古河市道の駅「まくらがの里こが」における研修

- ・ 平成25年7月7日に開業、茨城県では10箇所目の道の駅である。
- ・ 管理運営については民間事業者から公募により決定し、指定管理者となっている。
- ・ 農産物直売所の他、物産スペースでも様々な土産品を取り扱っており情報発信コーナーは特に仕切り等は設けず開放的に利用できる施設となっている。
- ・ 飲食施設はフードコート形式であり、情報発信コーナーで飲食可能となっている。また、アイス、コーヒーのテイクアウトについても同様である。
- ・ 古河市内にパン会社の本社工場があり、そこで作った生地を道の駅で焼いてパンの販売を行っている。
- ・ 24時間利用可能なコンビニエンスストアを施設内に設置し営業している。
- ・ 今後古河市においても独自ブランドを開発中である。

※「まくらが」とは万葉集にも使われている奈良時代にさかのぼる古い言葉で、古河周辺をさす長く使われてきた言葉である。

【視察研修における各委員の感想】

委員：駐車場の整備と直売所の陳列等を特に注意して視察した。両駅ともに個性があったので、旭の道の駅整備についても今回の視察を参考にして、よりよい施設となるよう努力したい。

委員：「思川」ではジェラートのみ集中して視察した。ジェラートの経営は近くの牧場主が道の駅オープン当事から運営している。冬場に客から「コーヒーはないのか」との意見がありそれを反映してコーヒーマシンを設置したとのこと。現在は「ジェラート&カフェ」として営業している。「こが」については、多目的スペースがオープンになっており飲食可能ということで利用しやすいと感じた。旭も情報発信スペースはオープンに整備することが望ましいだろう。また、ジェラートは苺農家が作って収めたものを、直営で販売しているとのこと。ジェラートのすぐ隣のスペースにカフェがあり、ジェラートとコーヒーという一つのスタイルは旭でも参考になるのではないかと感じた。

委員：消費者としての立場で視察した。子供を連れて長時間滞在できるような施設整備をするといいと感じた。夏場には日陰やミスト等もあるといいだろう。また、家族で体験できる工房等をボランティアにより運営するのもいいのではないか。旭市の特色を何か出すといった点では、例えば野菜マイスター等を直売所に配置して客からの野菜の質問に対応し、会話しながら買い物出来る様なシステムも面白いのではないか。また、例えばだが建物の外壁を真っ赤に塗装するなどすれば、奇抜との反対意見もあるかもしれないが、全国的にも他の道の駅にはない特徴になり、マス

コミ等にも大きく取り上げられるのではないか。

委員：花木について特に視察した。道の駅における花木のレイアウトは大体が施設の端になりがちである。旭市の道の駅においても、生産者にとっては現在の出荷以外の対応となるので中には出品について難色を示す生産者も出てくるかもしれないが、花木での道の駅成功事例になれるよう努力したい。

委員：「思川」では7キロ手前から案内看板を設置していたのが印象的であった。両駅とも東北自動車道・北関東自動車道に挟まれ、こがについては日光街道沿いで、思川も片側3車線道路沿いである。交通量については両駅とも3万台を超えるだろうという魅力的な立地であり、旭市の道の駅建設地とは道路条件が違ふ。旭市においてもいかに交通動線を誘導できるかが問題であり、週末は観光客誘致等も検討しなければならない。

委員：「思川」では評定館の運営やバラのイベント、市民農園の活用など人が集まる仕組みをよく考えているという印象であった。また、漬物コーナーでは、ニラやたまねぎの漬物等他では売ってないような商品を取り扱っておりとてもよいと感じた。

委員：旭市の情報発信スペースでは、市内の芸術家の方々の作品や、旭市にゆかりのある歴史上の人物に関わる展示品等で盛り上げるのもよいのではないか。また落花生は八街市が有名であるが、旭市が落花生発祥の地といわれているのでそういった題材を利用するのもよいのではないか。

委員：今回視察したことにより、旭市での運営のイメージがしやすくなった。思川のレイアウトはかなり旭に近いと感じた。平日にも関わらず駐車場も大変込み合っており、旭市の道の駅もあの位になればいいと感じた。集客に大事なことはいかに生産者の協力を得ることができるかであろう。生産者に「自分の店」と思ってもらえるような関係作りをする必要がある。

委員：消費者として意見を述べたい。「思川」は大型車と普通車の駐車場がきっちりと分けられ、車が整然と並んでいて利用しやすさを感じた。また、平日にも関わらず多くの駐車台数がありうらやましい状況であった。レジ位置も入口の近くであり、買い物しやすいレイアウトで、野菜の品物も数多く取り揃えていた。「こが」は野菜生産者の名前の表示や写真がとても大きく表示されていたので、生産者も「責任を持って納品しなければ」という思いが生じるのではないかと感じた。消費者も安心して購入できるだろう。「思川」のコミュニティ施設の評定館の集客は非常に多いが、直売施設等の利用には繋がっていないとのことだったので、旭市でもイベント時の客をいかに直売施設に誘導するか工夫と努力をしなければならない。

委員：まず感じたのは「思川」というネーミングであり、旭の道の駅に適した名称は何になるかと考えた。「こが」で参考になったのは情報発信コーナーと他の施設を仕切らずにオープンな整備をしており、是非旭の道の駅でも客が憩えるスペースにするべきである。旭市には文化関係の展示場があまりなく、そういった活用にも期待したい。また両駅とも広い空間で天井も高く開放的でゆったり過ごせるが、経営として考えると空調費用等も相当かかるので一長一短があるだろう。また、「こが」は生産者の写真が大きくて見やすく、陳列ケースも大小よく分かれていて品物も選びやすかった。パン屋については、パン会社の本社が地元であり、生地を納品して道の

駅で焼いて提供しているとのこと。また期間限定のロールケーキ等魅力ある商品も多く取り扱っていた。

アドバイザー：両駅に対しての意見は、委員の皆様からほとんど出尽くしたと思う。今回出た意見をうまくまとめていただき、旭市の計画に反映していただきたい。今回の視察において道の駅のベーシックな形式はご理解いただけたと思う。一般的な整備・運営に加え、いかに旭らしさを付け加えるかが問題になってくる。様々なイベントを行い、販売についても工夫をし、いかに集客を図るかが重要である。今後具体的な内容の議論になっていくので、我々も資料提供等していくので、一層活発な意見交換をしたいと考えている。

委員長：今回の視察において両駅から説明を受けたが、生鮮品の品揃えをいかにスムーズに行えるかが重要であるということが再確認できた。県内道の駅のほとんどの箇所が野菜の品揃えについてはJAに関わってもらっている。旭市の道の駅で「野菜等の品物が揃うのか」「品揃えについての生産者等との調整が遅いのでは」といった不安の声も聞くため、JAの協力が必須になるだろう。旭市では生産者の直接納品とJAからの納品の2本立てで行いたいと考えている。